

## 水稲の乾物生産における品種間差異

(第1報) 統一系品種の苗代期の生育遅延

李 承 宅・清 野 馨

(九州農業試験場)

韓国においては、現在、おおよそ統一系品種 (In dica × Japonica) 75%, Japonica 系品種 25% の割合で水稲が栽培されているが、統一系品種は短秆で、葉身が広く、しかも直立型で、1穂粒数が Japonica 系にくらべていちじるしく多いという特徴をもっている。しかし、この品種は、苗代における初期生育が非常におそく、このため水苗代育苗が不能の地帯があり、大部分は保温育苗に頼っている。この点が Japonica 系と異なるところで、一般には低温によるものと考えられている。

筆者らは、統一系品種の乾物生産における特徴を、作物栄養の立場から明らかにし、施肥法あるいは栽培法を確立するための指針を得るために、Japonica 系品種との比較検討をおこなっているが、育苗における上記の特徴について若干の知見を得たので報告する。

## 1. 試験方法

砂耕とし、統一系品種として維新と密陽23号の2品種 Japonica 系としてレイホウを供した。施肥は無肥料と三要素の2区とし、播種後15, 26, 35日に苗を抜きとり調査をおこなったのち、その一部はもみを除去して、再び砂耕を継続し、播種後50日で栽培を終了した。調査は、草丈、葉数、乾物重のほか、炭水化物含量についておこなった。

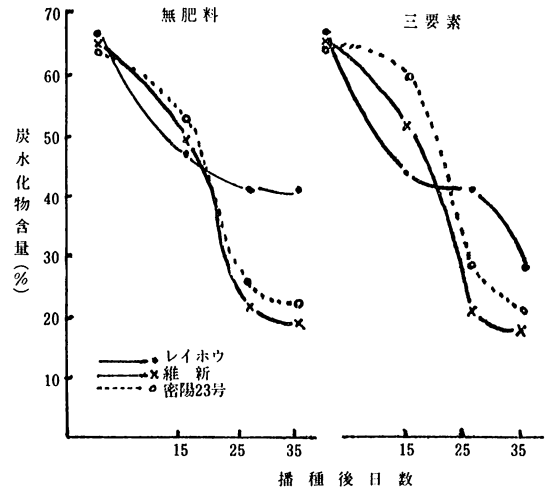
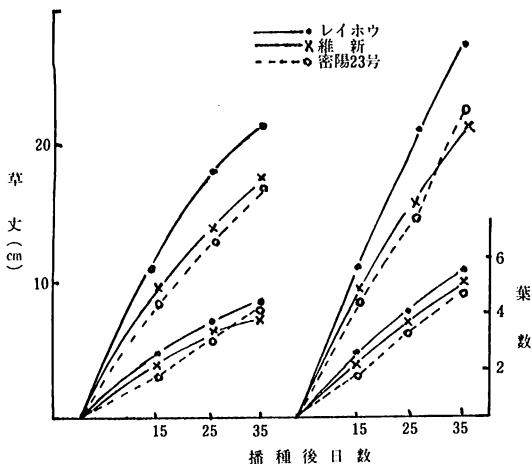
## 2. 試験結果

1) 統一系2品種にくらべ、レイホウの発芽苗立は早く、播種後15日で3葉(離乳期)に達する。統一系のな

かでは、維新が密陽23号にまさる。2) 播種後15日の乾物重では、統一系の三要素区と無肥料区の間に大差が認められない。

	品 種	乾 物 重 (mg/個体)					
		播種後15日		播種後26日		播種後35日	
		無肥料	三要素	無肥料	三要素	無肥料	三要素
茎葉	レイホウ	8.7	11.3	20.1	29.0	32.0	66.2
	維新	7.8	8.1	18.7	26.7	29.0	51.8
	密陽23号	6.4	7.0	19.8	25.7	28.9	61.4
根	レイホウ	5.9	5.1	9.8	17.5	15.5	25.7
	維新	5.7	4.8	12.1	13.1	15.8	25.1
	密陽23号	4.5	3.2	11.6	15.9	17.2	25.0

	品 種	乾 物 重 (g/個体)					
		もみ除去, 移植後の日数					
		35(播種後5日に移植)		24		15	
		無肥料	三要素	無肥料	三要素	無肥料	三要素
茎葉	レイホウ	0.63	1.25	0.28	0.55	0.10	0.45
	維新	0.93	1.13	0.25	0.65	0.08	0.30
	密陽23号	0.55	0.68	0.35	0.68	0.09	0.35
根	レイホウ	0.23	0.40	0.10	0.18	0.05	0.13
	維新	0.33	0.48	0.10	0.25	0.04	0.10
	密陽23号	0.18	0.23	0.15	0.23	0.04	0.13



3) 播種後15, 26, 35日に、苗のもみを除いて、再び移植した結果、密陽23号は、播種後15日にはまだ離乳期に達していないが、すでに独立栄養が可能であることが明らかになった。

4) もみの中の炭水化物の残存量をしらべると、レイホウは統一系にくらべて、播種後15日までの含有率の低下がいちじるしく、統一系、とくに密陽23号は減少の程度がゆるやかで、おそくまで続くことが認められた。

5) レイホウでは、離乳期以後、もみの中の炭水化物の減量はいちじるしく小さく、50日後にもなお、肉眼的

品 種	水稻の種もみからの炭水化物の減少割合(%)					
	播種 ~ 15日		15日 ~ 26日		26日 ~ 35日	
	無肥料	三要素	無肥料	三要素	無肥料	三要素
レイホウ	89.6	89.9	6.4	6.1	0.6	2.2
維 新	85.9	81.6	12.3	16.1	0.6	1.1
密陽23号	68.4	61.9	28.6	36.1	1.6	0.6

にその残存が確認されたのに対し、統一系ではほとんどこれがみられなかった。